



## 著者プロフィール

鍵和田 祐子（かぎわだ・ゆうこ）

昭和7年2月21日、神奈川県生まれ

昭和29年 お茶の水女子大学国文学科卒。在学中に句作を始める

昭和38年 「萬緑」に入会、中村草田男に師事

昭和44年 「萬緑」同人、同50年萬緑賞を受賞

昭和52年 句集『未来図』により第1回俳人協会新人賞を受賞

昭和59年5月 俳誌「未来図」を創刊、主宰

平成14年3月 大磯鳴立庵第22世庵主

現在 俳人協会常務理事。俳文学会、日本ペンクラブ、日本文藝家協会各会員

著書 句集『未来図』『浮標』『飛鳥』『武蔵野』『光陰』『風月』、他に自註句集など。エッセイ『季語深耕〈祭〉』『俳句のある四季』『花旅吟』。入門書に『俳句・季語』『俳句をつくる』『作句のチャンス』『実作季語入門』『俳句上達講座』など。監修に『花の歳時記』。他に共著など多数

〈句集『胡蝶』より転載〉〈2005年8月12日時点〉

## 『胡蝶』（自選十五句）

鍵和田 祐子

火も水も星もありけり年新た  
白鳥といふやはらかき舟一つ  
みちのくの踊りつつ皆過ぎゆけり  
コスモスや水漬く屍もそよぐらむ  
冬の竹はがねの音を立てにけり  
晩年や棘もたふとき冬薔薇  
くれなるといふ重さあり寒椿  
種を蒔く背に茫茫と淡海かな  
青甘蔗のうねりてなびき沖繩忌  
庵主てふ花の嫗となりしかな  
夕波のさねさし相模初つばめ  
円位忌の波の無限を見てをりぬ  
黒葡萄いささか渋き昭和かな  
ふくろふと向き合うて聴くしぐれかな  
今年逝く大仏ゆらぐこともなし